

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070500968		
法人名	NPO法人ひだまり		
事業所名	グループホームこかげ		
所在地	長野県飯田市下久堅知久平1715-1		
自己評価作成日	平成23年2月27日	評価結果市町村受理日	平成23年7月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070500968&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが安心して暮らせるよう集団生活のなかでも個人の意思を大切に介護を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、天竜川を眼下に眺め、傾斜地にある民家を増改築した「グループホームこかげ」である。日々の関わりの中から職員は利用者が、集団の中でも個人の意思を大切にしたいという事業所が力を入れているケアから、利用者一人ひとりがこれまで多くの経験を積んできた”ひとり”として、理解することから始めようとしている。日常のケアの方法が変化していく中、食事、排泄等を介護する視点から、その人の生活リズム、嗜好などに視点が向き、「人に関わる」介護計画作成するよう、シートを作成し始めて、全職員で取り組む努力をしている。理念は、管理者及び職員が、独りよがりの想いでなく、これを掲げる事で「なんのためにケアをするのか」という課題に取り組む姿勢が、ケアに関わる自己評価を実施しつつ見出そうと努めている。しっかりとした理念と方針、職員の直感と行動力が生活の質を高める事に繋がる事が期待できる事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした施設を理念に掲げ、日々実践できるよう心がけています。	「...家庭的な...ゆったりと穏やかに...」という言葉を理念とし、小さな気づきの積み重ねから、「ゆったりと穏やかに」ケアを行っている。ミーティング等で「何のためにケアをするのか」理念を掘り下げ、管理者、職員が共有し実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や役割などできるだけ参加しています。	常会に加入し、ゴミ当番等行っている。地域のお祭りや入居者と一緒に回覧板を届けに行ったり、ご近所から野菜のお届けを頂いたりして、地域の人達とのつながりができている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的にはできていないが、相談があった場合にはできるだけ丁寧に対応させていただいています。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告し意見を頂き実践に活かしています。	家族・区長・民生委員・地域包括センター職員から構成され、2カ月に一回開催されている。外部評価の結果やホームの活動報告を行い、委員からの意見、助言等を運営に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時連絡、相談し協力を頂いています。	困難事例やケアサービスの相談等、事業所から出向き、事業所の内容や実情を理解して頂いている。担当者から適切な助言等頂き、協力関係を築きながら、事業所の運営に活かしている。	

外部評価結果(グループホームこかげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解し実践しています。	施錠を含めて「こかげにおける身体拘束をしないケア」を作成し、読み合わせや研修を行い、身体拘束について職員全員が認識し、日常のケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加者もあり、実践できています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践できています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約後でも分かりやすい説明を心がけています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、推進会議の時など意見を聞いて実践に活かしています。	来所時や運営推進会議等に意見や要望を伺うよう努めている。今後、行事等のお誘いを行い、場面づくりをしていく予定である。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会で意見を聞き運営に活かしています。	毎月行われる職員会において、提案や意見を図るようにしている。「勤務時間」について、職員の提案により業務改善に活かしている。管理者と職員はコミュニケーションを図りやすい環境にある。	

外部評価結果(グループホームこかげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厳しい労働環境の中で実際に難しいこともあるが法人が主体となり労働条件の改善に取り組んでいます。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加、資格取得、法人内研修など取り組んでいます。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまりできていないので今後取り組んでいきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの要望や、ご本人の意向など把握できるよう心がけ実践に活かしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	そのように取り組んでいます。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように取り組んでいます。		

外部評価結果(グループホームこかげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側という関係ではなく、生活を共にしている感覚で関係ができています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力のもと取り組んでいます。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと取り組んでいます。	馴染みの場所や人との関係も高齢化と重度化に伴いややもすると、途切れやすくなってしまいが、家族の協力のもと、桜のきれいな場所や、美容院に行ったりして、その人の心に刻まれた大切な関係の支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人の個性やペースに合わせた支援をしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのように取り組んでいます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を把握すると共に困難な場合はご家族に意見を聞き取り組んでいます。	職員会等で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握の共有に努めている。意思疎通が困難な場合は表情でくみ取り、また、家族等聞くように努めている。	その人らしく暮らし続けるため、取り組み始めたチェックポイントシートを活用し、アセスメントで明らかにされ利用者の生活全体を把握し、更に、これを介護計画に活かされる事を期待する。

外部評価結果(グループホームこかげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろんご家族や関係者から情報を得て把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会でも情報を出し合い把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族にもできるだけ希望を出してもらい作成にあたっている。	担当制をとっている。職員会において、日頃のケアより得られた気付きや意見を、担当者から聞き、これを介護計画に反映するよう努めている。見直しは、3カ月に1回行われている。	利用者がその人らしく暮らし続けていくために、日々の記録を基にアセスメント、モニタリングを行い、職員全員で話し合い介護計画を作成される事を期待する。又、利用者の状況変化に応じて見直しされる事が望ましい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の台帳に毎日記録すると共に、特記事項は連絡帳にも記載し情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や関係者の協力のもと取り組んでいます。		

外部評価結果(グループホームこかげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	そのように取り組んでいます。	主治医の定期的な往診もあり、受診等は、職員が付き添い、家族には口頭で状況を伝えている。又、在宅酸素の必要な利用者が、往診等看護及び介護の連携により在宅酸素が不要になったケースもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師の為必要時にはすぐに連絡を取り取り組んでいます。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、医療機関と相談しながら取り組んでいます。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族にアンケート(意向)を取り主治医とも相談し取り組んでいます。	終末期に向けての家族等への意向調査を実施し、事業所としての看取り指針が作成され、全職員が方針を共有している。終末ケアを中心とした職場内の学習を一定の内容・構成の下で実施される事を期待する。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の学習会で取り組んでいます。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を実施しています。地域の協力で集会所を避難場所として使用許可を頂いています。	火災・水害等災害を想定し地域消防団と事業所との連携を取る仕組みができています。火災報知機が設置され、避難場所として地域の集会所の使用許可を頂き、地域との協力体制ができています。夜間を想定した訓練も実施されている。	

外部評価結果(グループホームこかげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのように取り組んでいます。	外部評価の目標達成計画の第1に掲げ、全職員において自己評価(対人援助等)を実施し、年2回の面接時の他者評価を行いながら、全職員が改善点や目標を設定し、次のステップに向けて取り組みを行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	そのように取り組んでいます。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に任せられてしまうことが多いが出来るだけ個人のペースに合わせた生活をしていただけるよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を聞くなどしてできるだけ取り組んでいます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には手伝っていただき食事の準備、片づけを行っています。	バランスを考慮しながら、利用者に「今日は、何にしましょうか」と聴きながら、ご近所から頂いたり、事業所の畑で収穫した季節の野菜を使い、利用者の力を活かしながら、その中にも職員のさり気ない手助けもあり、食事の準備や片づけ等を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人に合わせた食事を提供するよう心がけています。食事量についても毎食記録し把握しています。		

外部評価結果(グループホームこかげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ではなくその方の様子に合わせて行っています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	そのように支援しています。	利用者個々の排泄チェック表を付け、自立、見守りが必要な利用者、全介助の利用者と各自に合わせて、職員が時間で声かけて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼ってしまうことが多く、食事面での工夫はあまりできていないので今後取り組んでいきたいです。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ希望に沿った支援をしています。	入浴は週2回から3回、夕方入浴している。入浴出来ない利用者には、足浴や清拭により支援している。毎日、足浴して体が温まる様に対応している利用者もいる。全介助の利用者は、工夫して入浴を楽しまれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのように支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと取り組んでいます。		

外部評価結果(グループホームこかげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月行事を計画し楽しんでいただけるよう取り組んでいます。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ希望に沿って支援しています。行事やドライブ、買い物で外出する機会も設けています。	できる限り希望を聴き、買い物に行ったり、庭で日向ぼっこや草花を眺め、空気に触れ季節感を感じ、気分転換を図っている。時には、身体状況に合わせ車イスを活用し、ドライブしたり、お花見等季節行事による外出支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じて支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのように取り組んでいます。	共有スペースには、共同で作られた季節の飾り物があり、台所で調理する音、匂い等利用者は直接感じられ、家庭にいる雰囲気である。民家改修の事業所であり、共有スペースは狭いが、テーブルの配置や照明の調節等の配慮に工夫がされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人のペースに合わせた支援をしています。		

外部評価結果(グループホームこかげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご主人の遺影を置いたり馴染みの筆筒を置くなど希望に沿って支援しています。	各居室は十分なスペースがあり、筆筒や大切な家族の写真、ご主人の遺影が置かれ、思い思いの居室となっている。居室の窓からは、季節の花や田園風景を眺められ居心地よく過ごされる工夫がされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望を聞きながら状態に合わせた支援を心がけています。		